

column 《現場風景・あかり光景》111

渋谷駅桜丘口前再開発事業のスマート構想にコロナ・シフトはあるのか？ ～開発事業にもコロナへの考慮が必要な時代に突入!？～



これだけ大掛かりなプロジェクトの進捗状況が時々刻々オープンにみられる事例はなかなかない

前回の「光が丘清掃工場」(東京都練馬区)建て替え工事の現況報告に続き、今週も「現場・定点観測シリーズ」の一つ、渋谷駅桜丘口前再開発事業の現況をお届けします。

渋谷駅桜丘口前再開発では山手線などに接する約2・6ヘクタールの敷地にA街区(A1棟・A2棟・B街区(B棟)・C街区(C棟)の3街区に計4棟の新築ビルディングが建設されます。街びらきは2022年度の予定で、A街区には地上37F、B街区には地上32Fの多目的高層ビルが建設されます。両街区は商業・オフィス施設だけでなく、居住者および外国人ビジネスマンの生活支援を目指す国際医療施設や、渋谷の強み「クリエイティブ・コンテンツ産業」との連携を目指す起業支援施設などの機能も併せ持つ計画になっています。C街区のC棟が地上4Fのキリスト教系教会であることと併せ、渋谷駅桜丘口再開発は、一連の「渋谷駅前再開発事業」のなかでも異彩を放つ開発事業が進められているのです。

写真で分かるように、現在はずべての街区の地下部の基礎工事がたけなわ。近々、本体の建設工事に移るものと察せられますが、一つだけ気になることがあります。昨年从今年に完成した他の渋谷駅周辺再開発事業と違い、桜丘プロジェクトの場合、基礎工事が本格化する前の時点で新型コロナウイルスの騒動が始まりました。そして、新型コロナウイルス禍が日本より遙かに進捗してしまっているアメリカで現在進められている開発計画では、新型コロナとの共生時代を見据えた「スマートシティの定義」が、ものすごい勢いで変化しつつあります。

たとえば渋谷駅周辺の一連の再開発も、広義の意味で「スマートシティの共創を目指す」と謳っていますが、そのへんの「変化」がこれからあるのかなのか？

これからプロジェクト本体の建設が始まる桜丘口プロジェクトなら、そうした臨機応変な「変化」を先駆け的に出しやすいのではないかと思ひ、注目している次第です。(砂耳)